

上町しぜんの国

園だより | 5月号 2022.5.10

こわくないよー (2022.4.18 大川記)



テントウムシを探していたら、他にもテントウムシを見たい子が、後ろからついてきました。

私「おーい、テントウムシ出ておいで〜」

A「でておいで〜」

K「こわくないよ〜でておいで〜」

私「怖くないよ〜、エサたくさんあるよ〜」

A「かわいいよ〜でておいで〜」

A と K のテントウムシの呼びかけ方が、人に呼びかけるような、
動物と人の隔たりがないことが伝わりました。

2歳児のまるで絵本の中にいるかのような世界観の中を一緒に楽しんでいます。

5月の予定

子どもの声 が 聞こえてきたら

青山 誠

子どもは、心を寄せて、 大きくなっていく

急に暑かったり、冷えてみたり、雨がざあっと降ってきたり。不安定な気候がつづきますが、子どもたちのまわりには虫や花が生き生きと命を広げています。

新しく入職したIさんのエピソードから、子どもとちいさな命の出会いについて。

出勤して園庭に出ると、Rくんがいつものように水道のところで水遊びをしていた。

私は他の子様子も見つつ、Rくんがいつも水でどのように遊んでいるのか気になっていた。すると、Rくんから話しかけられた。

Rくん「みてっ」

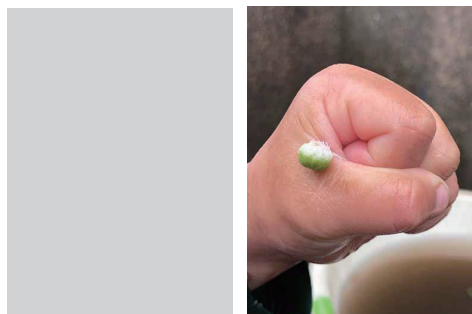
私「お！おはなだね。」

Rくん「ちがうよ。ダンゴムシだよ。」

私「え、あ、ダンゴムシか！」

ろいくん「ほら、まるまってる」

私「ほんとうだね。まるまってるね。」



手にのつたをハルジオンの蕾をRくんは落ちないように真剣な面持ちで眺める。

私にとってはハルジオンの蕾だったけど、

Rくんは蕾のフォルムでダンゴムシを連想したんだと気付いた。「ダンゴムシだよ」と言われてから、手にのつた蕾を見ると本当にダンゴムシに見えてくる。大人になると花は花にしか見えないけど、子どもにとっては身近にあるものを連想して考える。

その子にしかないユニークさがとても面白いと感じた。また、Rくんの手を固定して落とさないようにする姿から、ダンゴムシを大切に扱っていることが伝わってきた。

生き物にも命があることを実感しているんだろうなあ。Rくんのユーモアさと思いやりの気持ちを大切に関わっていきたいと思った。

(I記「Rくんのダンゴムシ」より)

これがほんとに「見立て」なのかどうか、またいろいろな見方ができるのだとは思いますが、ちいさな命に心を寄せる、子どものその瞬間に立ち会えることは保育者にとって大きな喜びです。Iさんは保育者になったばかりですが、<ろいくんの手を固定して落とさないようにする姿から…>というように、細やかな目をもって子どもの世界に近づいていこうとする姿勢が伺えます。こういう細やかさなしには、おとなが子どもの世界にお邪魔するということはできないのだと思います。

子どもが心を寄せるのは当然、虫や草花だけではありません。次は、Mちゃん(EM)のエピソードから。

夕方、Hが電車カードの取り合いであごをひっかかれ、手ぬぐいで冷やしていた。

そこへMちゃんがやってくる。

「いたかった？」

EM「そうそう、ここひっかかれたみたい」

M「いたかったねえ」

Hと目を合わせて、声をかけるMちゃん。

すると「すぐなおるよ！」と、Mちゃんが、Hにニコッと笑った。

今まで、Mちゃんは大人を介して話しかけていた感じがする。今回の場面だったら、Hに対して話しかける前に、私に声をかけ、そしてHにも声をかけるというような。

でもこの日は、終始Hに声をかけていたMちゃん。Hの目線に合わせ、目を合わせて話す。MちゃんはHに声をかけている。言葉のやりとり、相手とのコミュニケーションの取り方が、Mちゃんとその子になっているのに気づく。

「すぐなおるよ」が、

Mちゃんから、Hに対してのおまじないみたいだった。

怪我をした時とか、転んだ時とか、「いたいよー」「ここいたかったよ」と教えてくれるMちゃん。痛みに敏感なMちゃんだからこそ、寄り添える気持ちがあると思う。

今日もHに会うと、「ここ、いたかったね」とあごを指差して声をかけていた。自分のこ

とだけでなく、相手のこともよく覚えているんだなあ。

(E記「Mちゃんのおまじない」より)

ここで興味深いのは、Mちゃんのやりとりがまずは「保育者をはさんで」始まり、その後、「保育者をはさま】ないで、直接、相手の子と」のやりとりになっていった点です。Rくんとハルジオンの蕾との間にも、Iさんという「保育者をはさんで」いました。

子どもは虫や草花や、まわりの人に心を寄せて生きているのですが、かならずそこには「間にいるだれか」がいます。その「間にいるだれか」の反応はとても大事だということです。もしこの「間にいるだれか」の反応が冷たかったり、そっけなかったりしたら、世界や人との出会いも、それほど心が弾まないかもしれません。Rくんの気づきの繊細さや、Mちゃんの心に染み入るようなやさしさも、通り過ぎられてしまうかもしれません。

私達は日々ドキュメンテーションを書き、エピソードを個別にお渡ししています。それはこのような通り過ぎられがちだけれど、両手ですくいとりたような瞬間を保護者の方とわかちあって、ひとりひとりの子と出会っていきたいと思っているからです。

上町しぜんの国のキッチンより



夏野菜を育てています

園の畑では、夏の収穫に向けて準備がはじまっています。

先日は、一番大きい子たちと一緒に、園の畑へ行きました。

今回はじゃがいもの種芋を植えたり、苅部農園さんからいただいた、とうもろこしとかぼちゃの苗を定植したりしました。

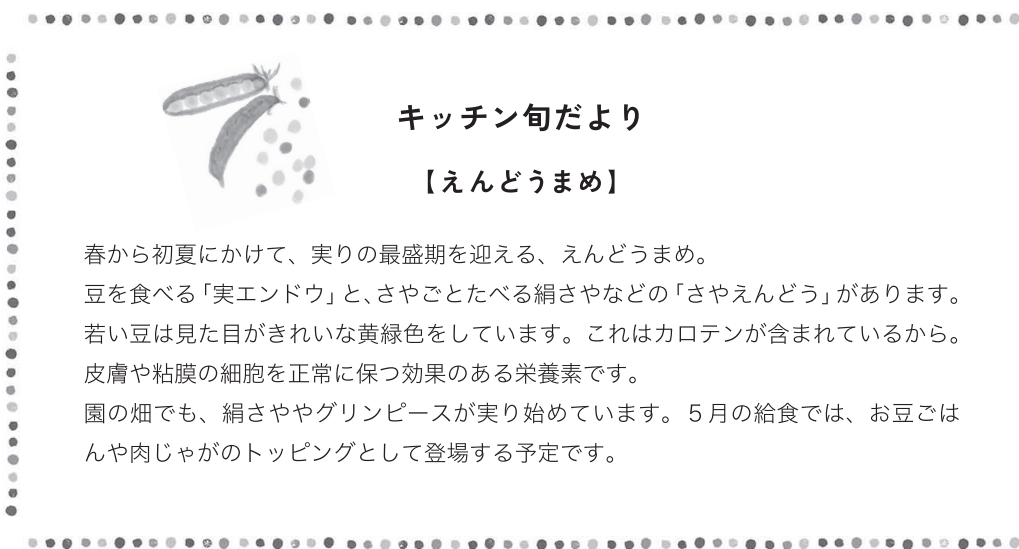
定植のあとは、てんとう虫やダンゴ虫、幼虫探しなども盛り上がりました。

少し土を掘ってみると、さまざまな生物がいます。

「これは何の幼虫？」「クワガタかな？」「保育園で飼ってみる？」

野菜だけでなく、色々なお宝を見つけ出す子どもたちでした。

ー キッチン久保田



キッチン旬だより

【えんどうまめ】

春から初夏にかけて、実りの最盛期を迎える、えんどうまめ。

豆を食べる「実エンドウ」と、さやごとたべる絹さやなどの「さやえんどう」があります。

若い豆は見た目がきれいな黄緑色をしています。これはカロテンが含まれているから。

皮膚や粘膜の細胞を正常に保つ効果のある栄養素です。

園の畑でも、絹さややグリーンピースが実り始めています。5月の給食では、お豆ごはんや肉じゃがのトッピングとして登場する予定です。



保健だより

4月は嘔吐・下痢の症状が出たお子さんがいました。

何回も嘔吐・下痢が続くと、小さいお子さんほど脱水症状になる可能性が高くなります。

嘔吐した場合は、胃が水分やものを受け付けない状態の時もありますので（吐くだけ吐いてスッキリする場合があります）、胃を休めるためにも1～2時間くらいは食べたり飲んだりせずに様子をみてることをおすすめします。

その後、経口補水液（ポカリスエットのような電解質入りの水分）をまずは1口くらいから飲ませてみるのがいいと思います。（いきなりたくさん飲んでしまわないように）

発熱がある場合は冷たくてもいいと思いますが、熱がない場合は常温か人肌くらいの熱さであると、お腹にも優しいですし、体内に吸収されやすいかなと思います。

それでも吐いてしまう場合は、唇が乾いていないかどうか、皮膚がカサカサしていないかどうか、おしっこが出ているかどうか、ぐったりしていないかどうか、など脱水症状に気をつけて早めに受診してみてください。

ー 看護師 通山

◎感染症状況(4月中)：アデノウィルス感染症 1名

職員 の 声

次男が中学生になりました！
入学後に配られた生徒手帳を
みると、まず「君たちには学ぶ権利が
あります」とあり、次に「お互いを尊重
して行動しましょう」と書いてあり、
感謝してしまいました♡
「ブラック校則」などが話題になって
いますが、あれダメこれダメの前に
「学ぶためのルール？」を考えていま
すね。新垣(まき)

胃の調子が良くなかった
こともあり、GWに長年続けてきた
晩酌をやめてみた。

お酒の代わりはハーブティー。
ブレンドも面白そうだし、自分で育てることも
できる。アルコールの世界から新しい
お茶の世界へ！楽しみが広がリ
そうだし キッチン 木村

おまつです。
5月から事務作業でもお仕事を
することになりました。毎日働くことに
なりました。子どもたちと会える日
が増えてうれしいです。同時に保護者の
みなさんと交流することも増えてくると
思います。引き続きよろしくお願いいたします。
おみ橋

ヤッちゃん
デス！

カメのお話パート2

山が家に陸カメが来まし
た。名前はリアスとコロッセオ
甲らの形がギザギザです。
たのが(リアス式海苔)
甲らの形が
世界遺産の
コロッセオは
イメしていたの
名付けの由来の話。

